

年 組 名前：

仮想空間の教室で学習

甲斐市は2023年度、市内の小中学生を対象に、インターネット上の仮想空間「メタバース」を活用した学習支援事業「メタバース・スクール」を試験的に実施する。放課後に開校し、小中学生が国語や算数・数学などの講義を受けられる。学力の向上とともに、児童生徒の分身「アバター」を通じた交流で新たな居場所づくりにつなげる狙いがある。(飯野裕平)

県教委義務教育課によると、メタバースを活用した自治体の学習支援の取り組みは「県内では聞いたことがない」としている。市経営戦略課によると、メタバース・スクールの対象は小学5、6年生と中学2、3年生で、新年度に利用者を募集する。希望する家庭にはサービスを受けるのに必要なパソコンも貸与する。

休日や平日の放課後に開校し、児童生徒は「アバター」を通じて、メタバース上の仮想の教室に出席。委員

ズーム ネット上に3Dコンテンツやデジタルフィックスを使って構築される仮想空間。英語で超えるという意味の「meta(メタ)」と、宇宙を意味する「universe(ユニバース)」を組み合わせた造語。自身の分身「アバター」で参加し、他の参加者と話したり、遊んだり、仕事をしたりできる。Google型の端末を使うなどして、現実とその空間にいるような体験もできる。

甲斐市試行へ 小中学生を支援

託先の事業者が用意した講師が音声で国語や算数・数学など主要教科の講義をし、学校の授業を補足する。学習もでき、授業などつまづいた点を講師に質問できる。子ども同士で交流することもできる。

担当者は「アバターを活用することで、対面での交流が苦手な子どもも学習意欲やコミュニケーション能力の向上が見込める」と話した。

DX(デジタルトランスフォーメーション)推進事業の一環で、市は来年度の市一般会計当初予算案に516万円を計上。回課は試験的な取り組みとして、利用実績や運用上の課題などを把握し、今後の運営に生かすという。担当者は「未知の取り組みで手探りの状態だが、利用が好調だったり、効果が認められたりした場合、本格導入を検討したい」と話している。

― 関連記事25面

(2023年2月11日付 山梨日日新聞 28面)

問1 メタバースとは、インターネット上の何のことですか。漢字4文字で答えてください。

--	--	--	--

問2 甲斐市が試験的に実施する「メタバース・スクール」を、利用できる対象学年を答えてください。

.....

問3 「メタバース・スクール」の授業は、いつ開校し、どのような教科の講義がありますか。

・開校： ・講義：

問4 あなたは、メタバースを利用して、なにをしてみたいですか。

.....

.....